

# 今月の農業情報

尾張

「越津」の仮植に機械を導入して省力化

とき 平成30年4月13日（金）

ところ 江南市

尾張地域の秋冬ネギの代表的品種「越津」は、軟白部も葉も食べられる柔らかい長ネギで、あいちの伝統野菜に選ばれています。「越津」は収量性が高い一方で、高温期の湿害に弱いという特徴があります。このため、梅雨時期の湿害を回避する目的で、この時期に高さ15cmの畝に仮植し、梅雨明け後に本ぼに定植することから、仮植作業が不要な一本ネギに比べ、栽培に手間がかかります。

農業改良普及課では、地域の担い手として「越津」を生産・出荷する愛知北農協出資法人に、仮植作業の軽労化を目的として、タマネギ用半自動移植機の使用を提案し、活用方法について話し合いました。検討を踏まえ、農機メーカー担当者が、タマネギ用の移植機（片道2条、往復4条植え）を「越津」の仮植用（片道1条、往復2条植え）に調整し、植え付けできるようになりました。従来の手作業に比べ、苗調製時に根切りと葉切りが必要となった点は手間がかかりますが、植付時の腰への負担がなくなり、作業時間も短縮できたことから、本格導入が決まりました。

近隣のネギ農家一戸でも本移植機が導入され、産地での省力化への取組が期待されます。



【半自動移植機を使用した「越津」の仮植作業】

海部

農村生活アドバイザー、20周年記念で歴史を振り返る

とき 平成30年5月15日（火）

ところ 津島市 生涯学習センター

農村生活アドバイザー協会海部支部は支部設立20周年を迎え、記念行事として講演会及び懇親会を開催しました。

記念講演として、名古屋昆虫同好会会長の間野隆裕氏を講師に招き、「昆虫・ヒト・農業・自然と生物多様性」と題して、昆虫の種類の豊富さや農業との関わり、バイオミメティクス（生物の優れた機能や形状を模倣・再現して、工学・材料学など様々な分野へ取り入れていく技術）などを紹介し、興味深い話題で支部会員の関心を誘いました。

引き続き開催した懇親会では支部OGを招き、10年間のあゆみとして支部活動に関するスライドを上映し、会員から提供された農産物、農産加工品を食べながら過去の活動を振り返りました。参加した支部会員からは「これは自分達で相談しながら決めた活動だ」、「この時聴いた話はよく覚えている」などの声があがり、これを機会に過去に学んだことを今後の活動に活かしたいとの意見も聞かれました。

本年度は海部支部長が県協会会長を兼任するため、農業改良普及課は新役員との連携を密にとり、支部活動へのより一層の支援を行っていきます。



【来賓を交えての記念撮影】

とき 平成30年5月31日（木）

ところ JAあいち知多 総合本部ビル（常滑市）

知多地域の花き組合、出荷組織及び作目部会で組織するJAあいち知多花き協議会は、設立10周年を祝う記念行事を開催し、花き生産者とその家族及び関係者80名が参加しました。農業改良普及課は設立準備から継続して協議会の運営支援に当たっています。

記念行事では、はじめに北澤保会長が「まず生産者が花を買って贈らないといけない」とあいさつし、花の消費拡大のために生産者自ら行動するよう呼びかけました。また、協議会設立と花の消費拡大に貢献した南知多町の磯部信満氏を功労者表彰しました。

続いて記念講演が行われ、東三河地域で花き卸売業を営みながら花のイベント企画会社を営んでいる近藤祐司氏が「花男子プロジェクト これまでの軌跡」と題して、「花贈り」文化の普及活動や花を贈ったとき、受けとったときの感動事例を紹介しました。参加者全員が花を贈ることの大切さを実感し、消費拡大のヒントを得ました。

式典後の立食パーティーでは3名の花男子が登場、花束作りと花贈りパフォーマンスが行われ、2名の生産者が日頃感謝の気持ちを伝える機会がなかった愛妻に花束を贈り、会場を盛り上げました。



【消費拡大を訴えかける北澤会長】

とき 平成30年6月1日（金）～6日（水）

ところ 安城市池浦町

西三河いちじく部会では、近年、露地ものの出荷初期にアザミウマ類の被害とみられる果肉の変色が多発し、出荷量が著しく減少しています。部会では、アザミウマ類防除の励行を指導していますが、十分な効果が得られない状況でした。

昨年度、幼果のハトメ部からの侵入防止として、農業改良普及課が発案した網目の細かい布製の果実袋（以下、「試作果実袋」と称す）を、株式会社コラントが試作し、部会員が幼果への袋かけを試行したところ、一定の防除効果を得ることができました。

今年度は、その実用性を検証するため、経済連の事業を活用して試験規模を拡大し、西三河いちじく部会管内6ほ場で試験を実施することとなりました。6月1日に、関係農業改良普及課、農総試広域指導室、経済連、コラント社の担当者が集まり、試験ほ場で袋かけ方法の確認を行うとともに、ハトメ部が開く前の下段幼果300果に試作果実袋を取り付けました。7月に除袋し、被害程度を調査し防除効果を確認する予定です。

本年度の試験で効果を確認できれば、試作果実袋を実用化し、部会に普及を進めていきます。



【幼果への袋かけ状況】

とき 平成30年5月1日（火）

ところ 石川製茶工場（豊田市豊栄町）

豊田市茶業組合が、お茶のPRのため、県や市、関係機関等を招いて手揉み体験会を開きました。

豊田市長ら参加者のほか、茶畑近くのこども園の園児28人も加わり、新茶の茶摘みと、手揉み作業によりうま味成分を引き出しながらゆっくり乾燥させる工程を、組合員から教わり体験しました。園児は、「茶摘みは初めてで楽しかった。お母さんと一緒にグリーンティーにして飲みたい。」と笑顔を見せました。蘆押組合長は、「地元の特産品を知ってもらう良い機会になった。今年は例年より5～7日ほど新芽の生育が早く、順調に育っている。組合員のチームワークを生かし、組合全体で高品質のお茶を作る努力をしていきたい。」と話しました。

豊田市では、上郷、高岡地区を中心に約50haでお茶を栽培しています。農業改良普及課では、引き続き豊田市茶業組合の活動を支援していきます。



【茶摘みをする園児達】

とき 平成30年4月中旬～

ところ 豊根村

5月12日（土）から、豊根村の茶臼山高原芝桜の丘で「芝桜まつり」が開始しました。

豊根村では平成28年から芝桜の丘の補植用苗の村内生産に取り組んでおり、4月12日に村内生産苗が芝桜の丘に定植されました。

村内での芝桜の苗生産は平成28年から実施しており、生産を開始した当初は、挿し穂の活着率・製品化率が低かったものの、今年度は生産した苗すべてが納入できるようになり、活着状況も良好でした。

農業改良普及課では、生産者の拡大と継続的な村内苗生産のため指導しており、まつり期間中の芝桜の丘の写真を見せると、生産者は「自分が作った物が役に立っているのはうれしいし、やりがいを感じる」、「作業に慣れて楽しくなってきたし、来年以降も生産を続けていきたい」と意欲を語っていました。



【芝桜の丘（5月29日撮影）】



【今年度定植された村内生産苗（5月29日撮影）】



と き 平成30年5月24日（木）

ところ 豊橋市総合老人ホーム つつじ荘（豊橋市飯村町）

豊橋4Hクラブは、地域貢献活動として今年も豊橋市総合老人ホームつつじ荘でサツマイモ苗の植え付けを支援しました。

4Hクラブ員は、事前に鍬や畝立て機を持ち寄り、畑の耕起、うね立て、マルチ貼りなどをおきました。この日は、つつじ荘20名と4Hクラブ員5名が参加しました。4Hクラブ員は、つつじ荘の参加者に説明をしながら、200本のサツマイモ苗の植え付けを手伝いました。昨年は苗の植え付け後の活着が悪く5割程度が枯れあがってしまったので、4Hクラブ員は、苗の上に新聞を被せることで萎れ対策を取りました。

参加者からは、今年は昨年以上の収量を期待できそうなどサツマイモの成長を楽しみにする声が聞かれました。この取組は、高齢者の生きがいと健康づくりに役立っています。

農業改良普及課は、つつじ荘と4Hクラブとの連絡調整などを行いました。



【植え付けの説明】



【植え付けの手伝い】

と き 平成30年5月9日（水）

ところ 田原市立野田小学校（田原市）

小学校が借りている水田で、4Hクラブ員1名が田植えを指導しました。小学校では、ふるさと学習の一環で、地域の暮らしを学ぶため農家の水田を借り、稲作を行っています。農業改良普及課では、小学校の依頼を受け、ジャンボカボチャコンテスト等の地域貢献活動を行っている4Hクラブを講師として推薦しました。

当日は、4Hクラブ員が苗の植え方や注意事項を小学生に丁寧に教えた後、4～6年生（80名）が「恵糯（めぐみもち）」を8aの水田に、すべて手植えしました。クラブ員自身も手植えの経験はありませんでしたが、事前練習の成果を発揮して、戸惑うことなく教えることができました。小学生が、苗を早く渡すようクラブ員にせがむなど和気あいあいとした雰囲気、秋の豊作を願うとともに稲刈り指導を約束して終了しました。

農業改良普及課は、4Hクラブが農業の魅力を未来へ伝える活動を引き続き支援していきます。



【田植えの方法を説明するクラブ員】



【田植えの様子】